

1月のNISA新規投資家、2カ月連続で過去最大の純流入！ 人気は、グローバル株(テクノロジー株など)、アセットアロケーション、日本株。

商品企画部 松尾 健治  
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## つみたて NISA 向け投信では日本株が人気だが、実際のつみたて NISA 投資では、バランス型という選択もある

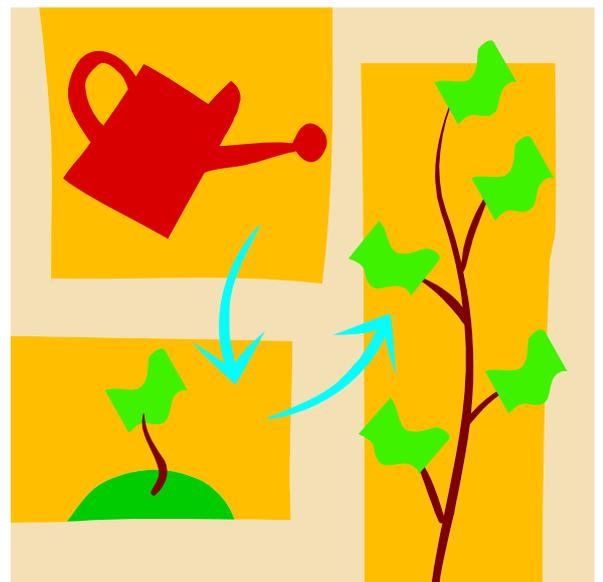
2018年1月1日にスタートした「つみたて NISA(少額投資非課税制度)」対象商品は投資信託だけで 144 本(公募投信 141 本、ETF3 本～2018年2月2日時点、後述※1 参照)ある。金融機関により取り扱う投信が異なり、数本に絞っている金融機関もある。

この「つみたて NISA」の販売状況は証券業協会などから現時点ではまだ公表されておらずそれを待つ事となるのだが、「つみたて NISA」以外で購入された分も含む「つみたて NISA」対象投信の純設定では、2018年1月、日本株ファンドに人気が集中していた。純設定上位 10 本の内、7 本が日本株ファンドであった。1～4 位が日本株ファンドである(\*5・10 位: グローバル株ファンド、6～8 位: 日本株ファンド、9 位: 米国株ファンド)。

「つみたて NISA」対象投信の純設定上位 10 本は全て株式ファンドで、バランス型ファンドは入っていなかった。だが、「つみたて NISA」では、「売却してしまうと非課税メリットが終了してしまいます。バランス型投信であれば、ファンドの中で投資割合の調整(リバランス)を行ってくれるため、投信の購入者は売買を伴わずに自動的にリスクの調整ができるという魅力もあります。」と言う記事もある事を覚えておきたい(2018年1月22日付日本経済新聞 URL は後述[参考ホームページ]①参照)。また、「つみたて NISA」だけでなく、個人型確定拠出年金(iDeCo)や保険、財形なども利用しながら中長期の資産形成を行うと言う観点から「つみたて NISA」投資商品を検討する際には、既に保有している金融商品を考慮する場合もある。

この様に、一般 NISA などに比べれば選択肢はかなり少ないものの、「つみたて NISA」に多いであろう投資未経験層や投資の初心者などはとりわけ何に投資すべきか悩む所。そこで今回も投信のデータを使い、これまで NISA で何が買われてきたかを見る。

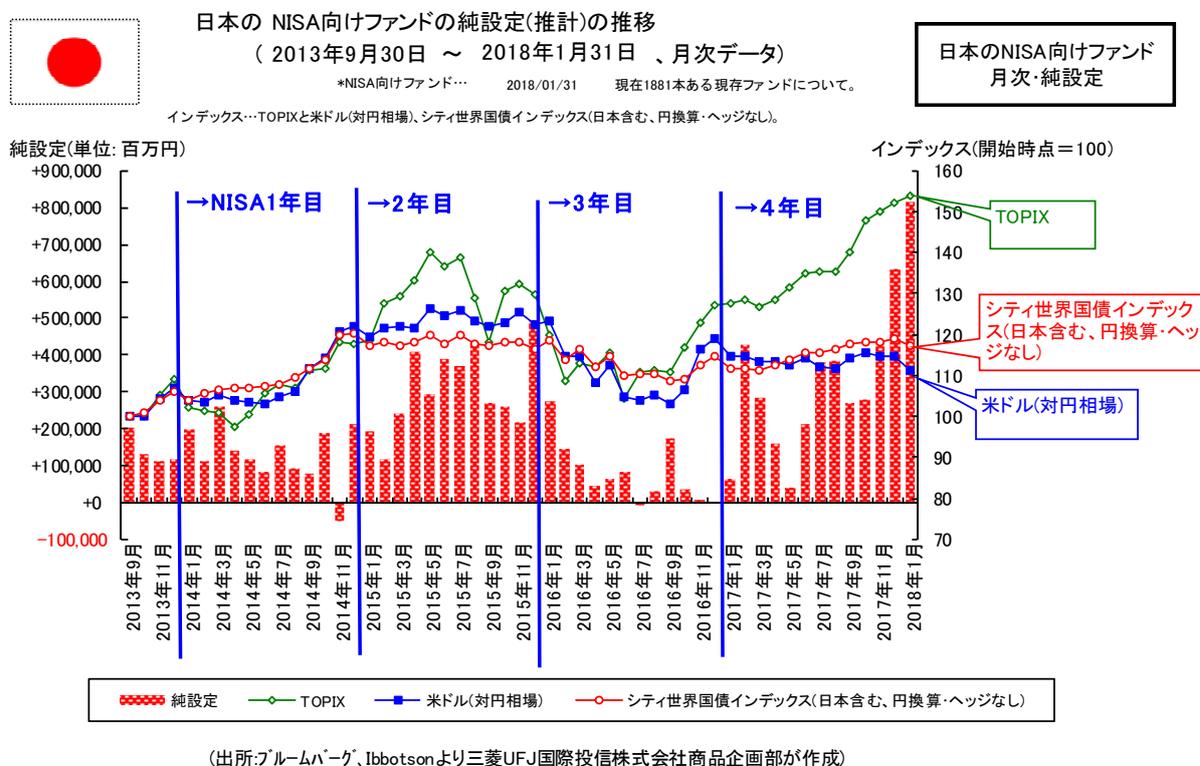
一般 NISA の投資家を、既存投資家と、投資未経験者或いは徐々に投資を行う層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者(新規投資家)は NISA 向けファンド(後述※2 参照)で代替する。投信を見る理由は、つみたて NISA が投信に限定されているほか、投信以外の株式等にも投資できる一般 NISA でも、買付額の 6 割が投信となっているからである(\*NISA 開始の 2014 年 1 月から 2017 年 9 月までの買付総額は 11 兆 8716 億円で、うち、投信 60.0%、上場株式 37.4%、ETF1.6%、REIT1.0%～URL は後述[参考ホームページ]②参照)。



※1: つみたて NISA の対象商品…つみたて NISA で投資できる商品は、金融庁が承認した投資信託に限られる。具体的には、販売手数料が無料(0%)、信託報酬が最大で 1.5%以下などの金融庁が示す要件を満たす投資信託。2016 年 11 月末時点で、要件に該当する投資信託は約 50 本と、公募投信(約 5000 本)のわずか 1%だったが、2017 年 7 月末には 120 本に増加(事前相談数)。正式な届出の初日 2017 年 10 月 2 日時点で公募投信 103 本、最新 2018 年 2 月 2 日時点では公募投信 141 本、ETF3 本である(うち指定インデックス投信 126 本、アクティブ運用投信等 15 本)。以上、金融庁が示す要件や個別ファンド名など詳細および更新情報は金融庁 HP 参照(URL は後述[参考ホームページ]③参照)。また、2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」、2017 年 9 月 11 日付日本版 ISA の道 その 195「『つみたて NISA 対象(仮確定)商品』は 114 本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行 NISA で 8 月に投資された先は?」も参照の事(URL は後述[参考ホームページ]④参照)。

## 1 月の NISA 新規投資家、2 カ月連続で過去最大の純流入! グローバル株やアセットアロケーション、日本株が人気

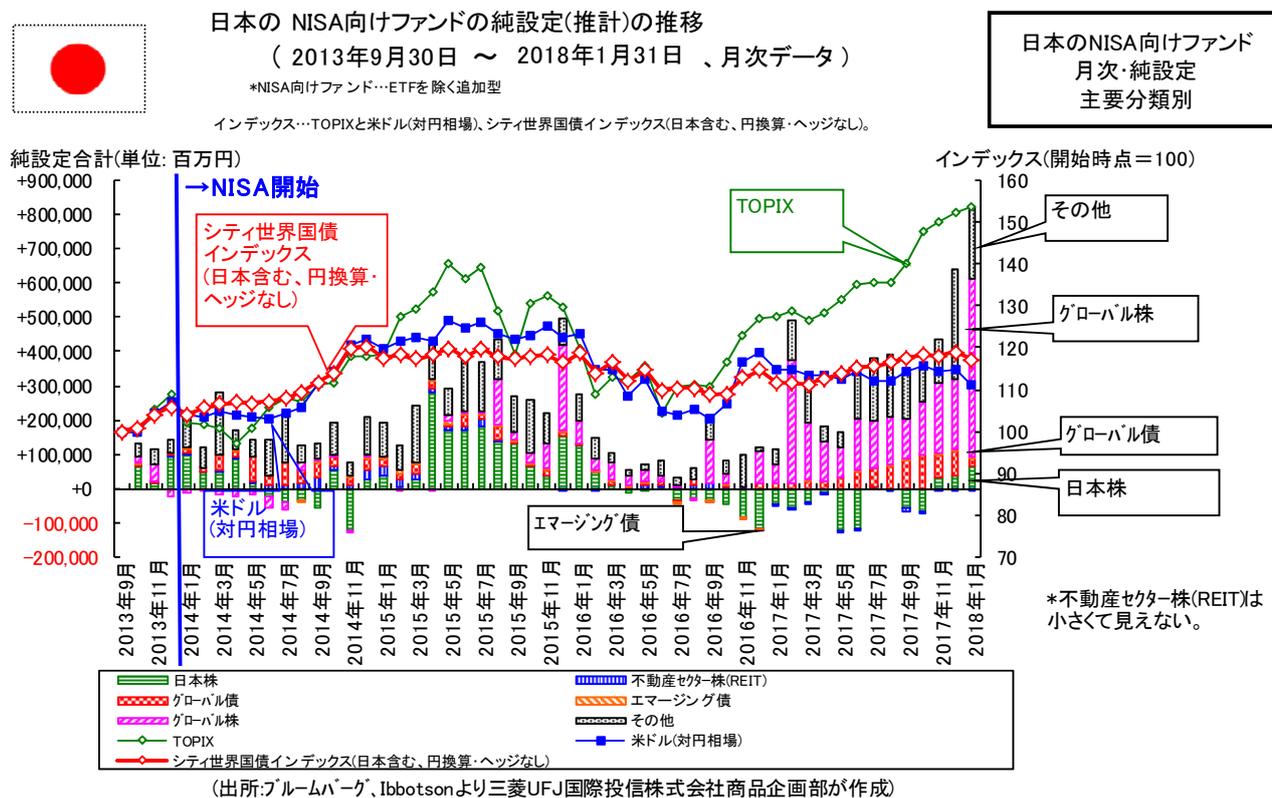
まず新規投資家を示す NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見る。NISA 向けファンドの純設定は、最新 2018 年 1 月に+8119 億円と、NISA 投資の始まった 2014 年 1 月以来最大の純流入で、純流入加速傾向となっている。



※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]⑤)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(\*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向

け、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(\*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2018年1月31日時点で1881本となった。

過去最大の純流入となったNISA 向けファンドを投資対象(主要分類)別で見ると、**2018年1月の純設定1位はグローバル株(前年10月から4ヶ月連続1位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(前年10月から12月まで3ヶ月連続3位)、3位は日本株(前月12月6位)、4位はエマージング株(前月12月2位)、5位はインド株(前月12月も5位)だった**(下記グラフ参照。\*主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション型とエマージング株とインド株は「その他」に含まれる)。

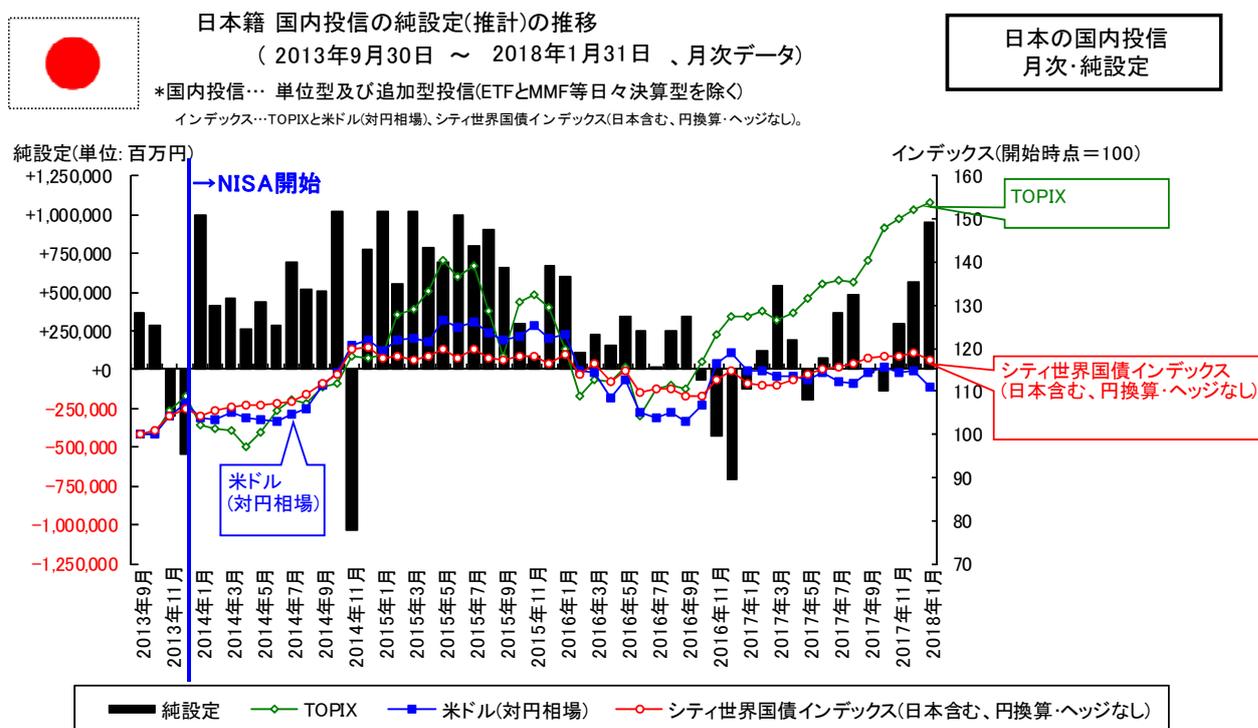


**また、2017年の1年間(1月~12月)で最大の純設定となったグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型(2年連続)は2018年も好調な純流入が継続中だ。このほか、足元で日本株への純流入が増えている。**

2018年1月に純設定最大だったグローバル株だが、1月は+5204億円と、月間ベースでNISA導入以来、最大の純流入となった。1月は新規設定ファンドを含めテクノロジー株に投資するファンドへの純流入が大きかった。2番目に純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型はNISA導入以降4年間、毎月の連続純流入で、安定的な資金純流入が続いている。日本株については、2017年11月に4カ月ぶり純流入に転じ、3カ月連続の純流入で加速傾向となっている。

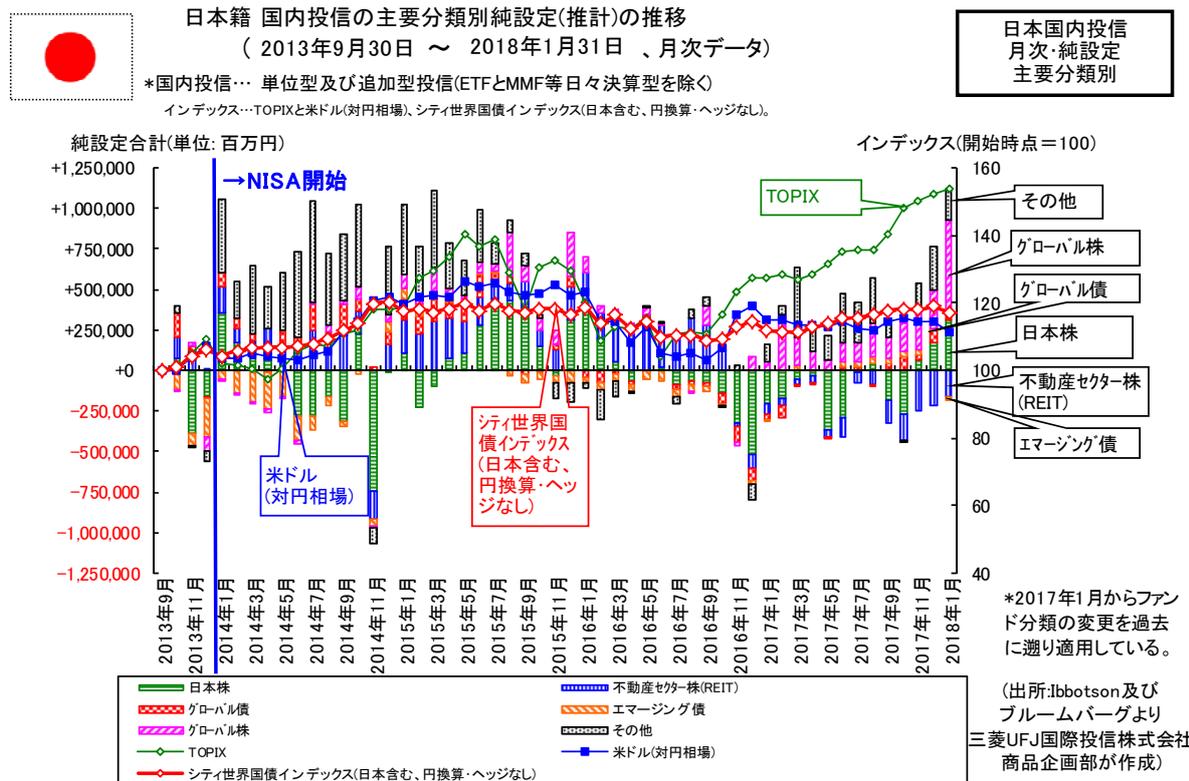
## NISA 既存投資家ではグローバル株や日本株、アセットアロケーションが人気

次に **NISA の既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は 2018 年 1 月に+9488 億円と、3 カ月連続の資金純流入で純流入加速傾向**。1 月の純流入額は 2015 年 6 月(+9958 億円)以来、2 年 7 カ月ぶりの大きさである。この 2018 年 1 月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

**2018 年 1 月に最も純設定の大きかったのはグローバル株、次いで日本株、アセットアロケーション柔軟型、インド株、グローバル債だった(次頁グラフ参照 \*主要分類…モーニングスターによる分類で 2017 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。ファンドの分類変更を 2018 年 1 月から過去に遡り適用したため、分類ごとの純設定額は前回と異なる場合がある。アロケーション型およびインド株は「その他」に含まれる)。** **2017 年の 1 年間(1 月～12 月)で最大の純設定はグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型、インド株だったが、NISA 向けファンドと同様、2018 年 1 月も前年からの流れが継続中であることに加え、日本株への純流入が目立っている。**

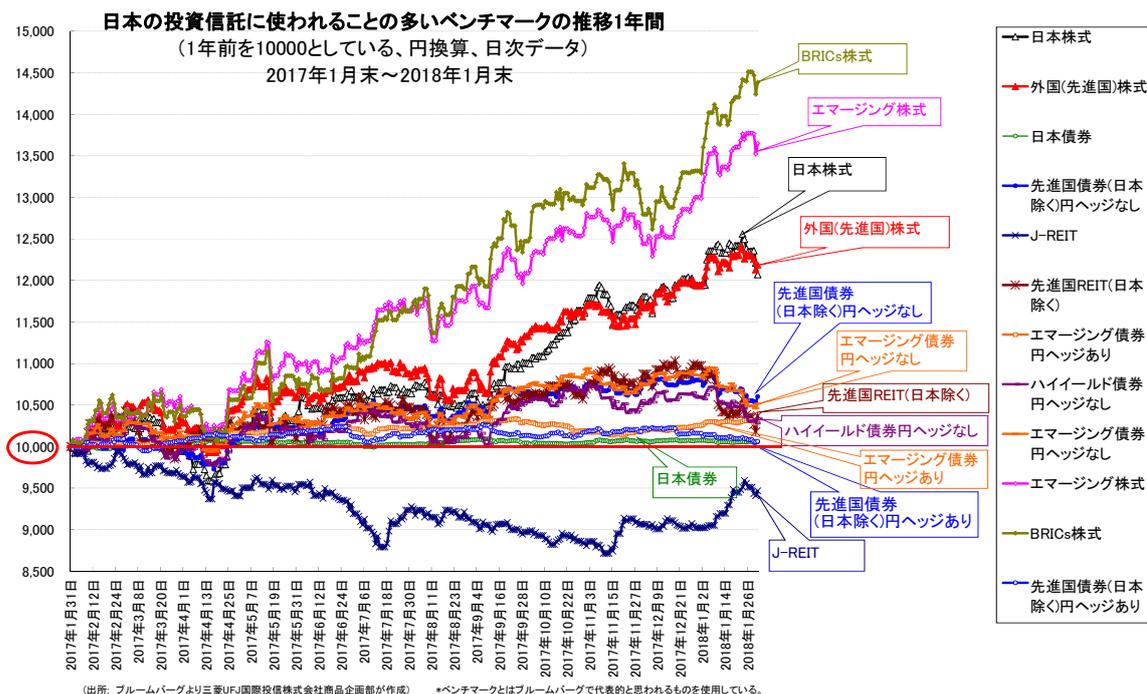


投信全体で、NISA 向けファンドと同様、1月に純設定が最も大きかったグローバル株は、2017年頃から純流入が増加、昨年は年間で約2兆円という純流入だったが、2018年は既に1月だけで5000億円(+5648億円)を超え、1年2カ月連続で純流入が続いている。

2番目に純設定の大きかった日本株は、昨年2017年11月から純流入へ転じ、2018年1月は+3182億円と、2016年1月(+3753億円)以来、2年ぶりの大きさである。

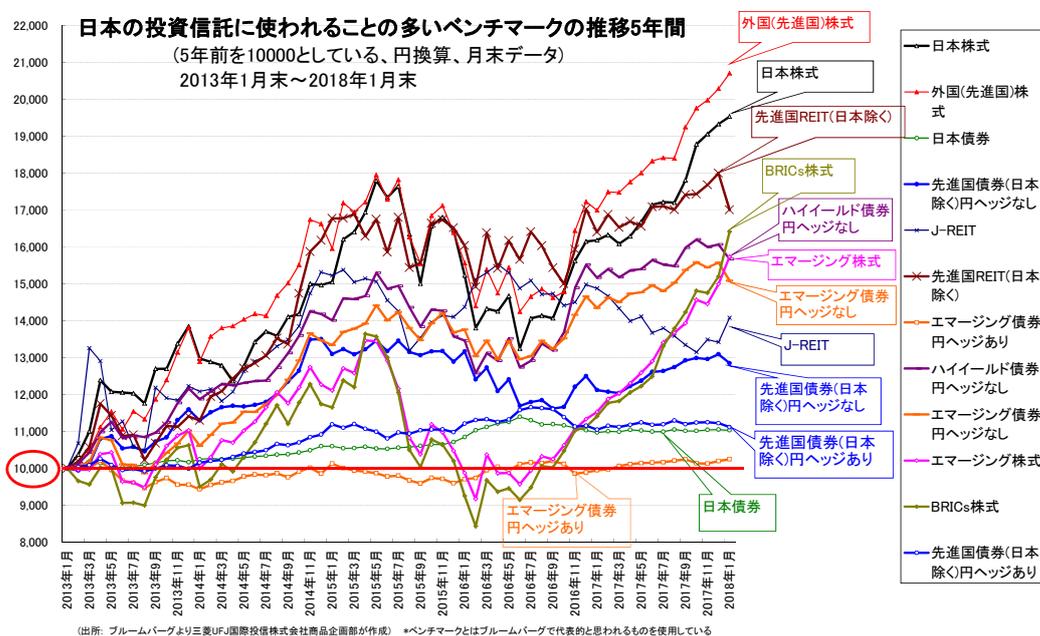
2017年の年間でグローバル株に次いで純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型だが、2018年1月は+863億円と14カ月連続の純流入である。

日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、次頁グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、エマージング株式、先進国株式、日本株式、先進国債券円ヘッジなし、エマージング債券円ヘッジなし、先進国REITとなっている(\*1年前を10000、円換算、日次データ)。



1年のパフォーマンスの最も良いBRICs およびエマーシング株式は、2018年1月の1カ月でも上記グラフのベンチマーク中、最も良いパフォーマンスだったが、5年では上から4番目および5番目となり、先進国株式や日本株式を下回っていた。

下記グラフは5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、日本株式、先進国REIT、BRICs株式、エマーシング株式、ハイイールド債円ヘッジなしとなっている(\*5年前を10000、円換算、月末データ)。5年では下記グラフのベンチマーク中、最も良い先進国株式のパフォーマンスは、2017年1月末からの1年では、エマーシング株式やBRICs株式に次いで3番目に良かった。5年のパフォーマンスが2番目に良かった日本株は1年で4番目、2018年1月の1カ月では5番目に良かった。1月は既存投資家にグローバル株や日本株が人気だったが、こうした長期パフォーマンスの好きが背景にある様にも見える。



以上、「投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層」(投資信託協会～URLは後述[参考ホームページ]⑥参照)を中心とする新規投資家(NISA向けファンド)でも、既存投資家(投信全体)でも2018年1月はグローバル株ファンドとアセットアロケーション柔軟型、そして日本株が人気だったと言えそうである。「つみたてNISA」を検討する人の参考になれば幸いである。

以上

#### [参考ホームページ]

- ①2018年1月22日付日本経済新聞「マネー研究所 つみたてNISA、まず先に商品選びを 手順を指南 つみたてNISAをマネーハック(3)」…「<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO25843420Y8A110C1000000?channel=DF260120166518>」
- ②金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/datacollection/index.html>」
- ③金融庁「つみたてNISA対象商品届出一覧」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、「対象商品の要件についての告示」…「<http://www.fsa.go.jp/common/law/kokuji/20170331nai540.pdf>」
- ④2017年4月24日付日本版ISAの道その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「[https://www.am-mufg.jp/text/oshirase\\_170424.pdf](https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf)」、2017年9月11日付日本版ISAの道その195「『つみたてNISA対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行NISAで8月に投資された先は?」…「[https://www.am-mufg.jp/text/oshirase\\_170911.pdf](https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170911.pdf)」
- ⑤2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」
- ⑥2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「<https://www.am-mufg.jp/market/report/investigate.html>」

#### 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

#### 本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。